

友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2023 May No.15



友の会総会の様子（2ページに関連記事）

CONTENTS

第76回文化講演会・令和5年度総会について	2
企画展「資料が秘めた物語 IV」開催中	
植栽整備活動の実施	
牧野富太郎も手本とした『植学啓原』	3
新刊紹介『地霊を訪ねる』	
資料館細見	
職員紹介	4
薬草の小径から ⑫	
蘭学・洋学史跡探訪 ⑤	
編集後記	

第76回文化講演会・令和5年度総会について



講演会の様子

4月22日(土)、友の会後援の第76回文化講演会が開催されました。今回は、洋学史学会会長で文学博士・和食文化学会理事の八百啓介先生をお招きし、「出島オランダ商館の輸入砂糖について」と題して、ご講演いただきました。出島オランダ商館の帳簿分析から分かる、江戸時代における砂糖の流通事情について、聴講者の皆さんは、大変興味深く耳を傾けておられました。

講演会に続いて、令和5年度友の会総会を開催しました。審議の結果、令和4年度の事業・決算報告、令和5年度の事業計画・予算案につき、原案の通り承認されました。

新型コロナウイルスが5類に位置づけられたことにもない、本年度は友の会の事業もコロナ以前へ順次戻していく予定です。

事業の詳細については、会員の皆さまへ随時お知らせいたしますので、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

役員の改選

今回は役員の改選期に当たり、理事の赤松康隆さんと監事の妹山滋さんの2名が退任され、新たに3名の方が加わりました。新しい役員体制は左表のとおりです。どうぞよろしくお願いいたします。

新役員・顧問一覧(五十音順、敬称略)

会長	小原 龍二
副会長	小林 圭子
	中島 浩明
理事	青木 睦子
	安東 勢輔
	小林 孝
	杉浦 千恵子
	(新)戸田 智仁
	(新)牧野 泰浩
監事	渡部 紀子
	(新)大倉 淳一
顧問	平岡 正宏
	下山 純正

企画展「資料が秘めた物語Ⅳ」開催中

会期：3月11日(土)～7月30日(日)

博物館や資料館に収蔵された歴史資料は、長い年月、多くの人々の手を介して、守り伝えられてきました。その過程で様々な出来事が、歴史として刻み込まれています。様々な角度から光を当てると、これらの資料は、その秘められた物語を語り始めます。

開催中の本展では、当館の所蔵資料から「蔵書から見る医家の学問」「箕作阮甫の漢詩」など、9つの物語をご紹介しますので、ぜひご覧ください。

植栽整備活動の実施



4月16日(日)友の会有志により、植栽整備を行いました。今回は資料館の薬草の小径と箕作家墓所で、雑草の除去や伸びた樹木の剪定をしました。

当日は11名の方に参加いただき、見違えるほどきれいになりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

牧野富太郎も手本とした『植学啓原』

ついに、その日がやって来ました。4月17日・18日、NHK連続テレビ小説「らんまん」で、主人公の万太郎（牧野富太郎）のセリフに「しよくがくけいげん」が登場したのです。

一般の人には何のことか分からなかったと思いますが、友の会会員の皆さんならよくご承知、「しよくがくけいげん」とは、もちろん津山藩医宇田川榕菴が著した、わが国最初の植物学書『植学啓原』のことですよ。



牧野富太郎が少年のころ、友人の父親（医師）が持っていた『植学啓原』を借り出して、それを写本しているんです。これは有名なエピソードですから、脚本家だったらドラマのどこかで使いたい？いや必ず使う！と信じて、毎回楽しみで見っていました。

高知市にある牧野富太郎記念館には、今でもその『植学啓原』が大切に展示されています。津山と高知、宇田川榕菴と牧野富太郎、不思議なところでつながっていますね。

新刊紹介 『地霊を訪ねる』



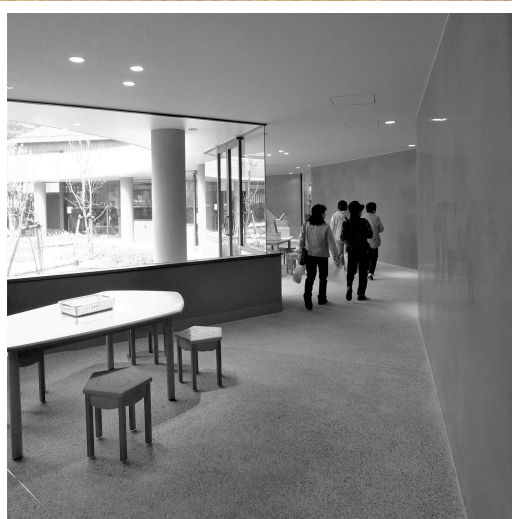
今年1月に筑摩書房から出された『地霊を訪ねる』もうひとつの日本近代史』を紹介します。この本は、経済学者として知られる大阪大学名誉教授の猪木武徳さんが、文化という言葉の意味は土地の歴史にあると、全国各地を旅して感じとったことを紀行文として書き綴ったものです。

「4. 津山から柵原鉦山、智頭宿をぬけて岩井温泉へ」の章では、谷崎潤一郎の碑や津山洋学資料館、津山郷土博物館などを見聞し、湯郷・柵原へ向かったことが書かれています。その中で「津山の洋学」の解説に多くの行が割かれているので感激です。

文中に、「津山で谷崎潤一郎の碑を探していると、通り掛かった賢者の風貌の老人が親切に案内を申し出た……（中略）……風格ある老人K氏……とあるのですが、実はその「K老人」とは、友の会会員で岸田吟香研究家の草地浩典さんだったのです。

資料館細見

～常設展示室とギャラリーの壁面「翡翠色の磨き漆喰」～



常設展示室の奥の出口を出て、ギャラリーへまわると、長く続く緑色の壁。この壁面、実は漆喰で、表面を鏡で磨き続け、まるで鏡のように仕上げられています。「磨き漆喰」と呼ばれるこの壁は、国内外で高く評価されている左官職人の久住有生さんの作品なのです。

それにしても、なぜ緑色なのか？建物を設計された象設計集団の富田玲子さんによると、展示室を五角形の翡翠の宝箱に見立て、その中に津山洋学の資料＝貴重な宝物が大切に収められている、そんなイメージから、この壁面にされたそうです。今度資料館に行ったら、展示室の後に必ず、この壁を注意しながらみてくださいね！

職員紹介



梶村明慶 次長

4月1日付けで洋学資料館に着任しました。前任は郷土博物館で、洋学資料館での勤務は初めてです。何かと至らぬ点もあるとは存じますが、微力ながら館の運営に力を尽くす所存でございますので、友の会の皆さまには、ご指導、ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願いいたします。

薬草の小径から 12



アカンサス

キツネノマゴ科
初夏に穂状の花を咲かせます。薬用としては葉や根を用い、利尿、下痢止め、火傷などに効果があります。アカンサスの葉は館内装飾のピンデローペンのモチーフの一つとして使用されています。

蘭学・洋学 史跡探訪 ⑤

平成三十年度の資料館友の会の研修バス旅行で、四国志度の平賀源内記念館、旧邸、自性院のお墓に参られた方もいらつしやると思っています。今回は源内の江戸と福山の足跡を訪ねます。

源内は江戸に於いて色々な蘭学者と交わりました。杉田玄白もその一人です。解体新書の図を描いた小田野直武も源内の紹介であったそうです。源内は蘭学・洋学から本草学、鉱山、浄瑠璃作家、戯作者など多様な活躍をしました。しかし晩年に誤つて人を殺し、小伝馬町の牢屋で亡くなつてしまいました。江戸の墓は台東区橋場の旧総泉寺の墓地跡にあります。そこには墓石と源内の死を嘆いた杉田玄白撰文による「嗟非常人、好非常事、行是非常、何死非常」と刻まれた記念碑があります。この碑は昭和初期に建てられたものだそうです。築地塀で囲まれた墓域の扉を開けて何度かお参りさせて頂きました。が、やぶ蚊がとても多く難儀しました。その他に「平賀源内電気実験の碑」は江東区清澄にあります。

「江戸と福山の平賀源内を訪ねる」

(東京都台東区・江東区・広島県福山市)

会員 松浦信輝



台東区橋場にある源内墓

内焼の製法を伝え、土の神、かまどの神、平賀源内大明神を三宝荒神として祀るよう言い残したことによるそうです。海岸通りから、かなり急な狭い坂道が上がった所にあります。

アクセス

台東区橋場の源内墓 JR南千住より南東へ徒歩二十分
電気実験の碑 東京メトロ清澄白河駅より西へ徒歩九分 読売江東ビル前
鞆の浦の生祠 福山市鞆町後地一四五八付近
参考文献 『平賀源内の研究』 創元社(一九七六)
平賀源内先生顕彰会『平賀源内先生二百年祭誌』平賀源内先生顕彰会(一九七九)

編集後記

緑芽が日ごとに色を増し息吹を感じる季節です。コロナ禍というトンネルの先にもようやく光が見え始め、友の会の活動も制約を緩めつつ計画が立てられるようになってきました。

「友の会総会」で三年ぶりに研修バス旅行の実施が決まりました。朝ドラで盛り上がる牧野博士のふるさとが目的地です。本文中にもありましたが、ドラマの中で「植学啓原」という一瞬のセリフに反応された方も多いのではないのでしょうか。私もそのひとりです。

友の会の事業は、会員でなくてもどなたでも参加できます。楽しい催しを計画して参りますので、ご家族ご友人お誘い合わせでご参加ください。

(W)

津山洋学資料館友の会通信 第15号

令和5年5月
編集・発行
津山洋学資料館友の会事務局
〒708-0833
津山市西新町5
津山洋学資料館内
☎0868-23-3324